

ホッとアートプレゼント実施アンケート結果 「保護者」138人

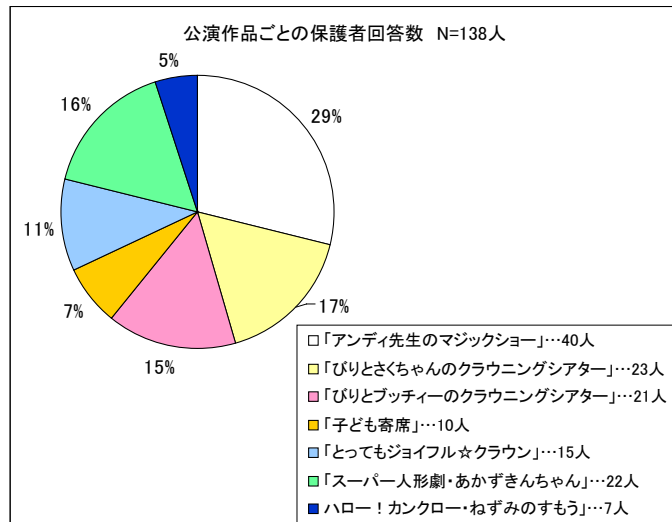
保護者の回答 138 人の内訳と特徴

保護者の回答数は、療育施設では付き添う保護者がほばいない状態での公演のため少なく、逆に、乳幼児を中心対象とした病棟での公演では、相対的に保護者の回答数が多くなる。

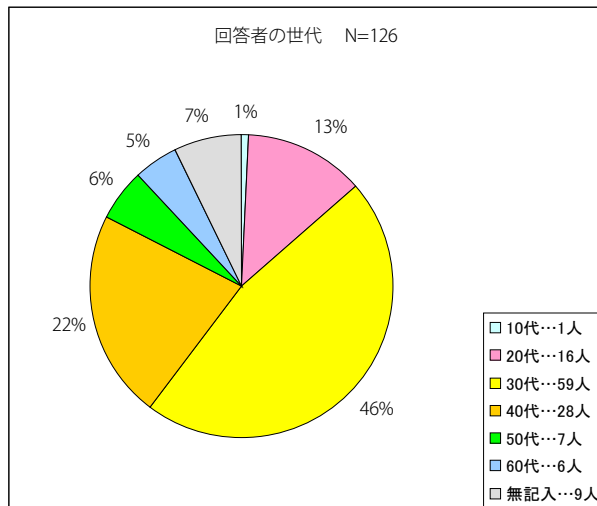
(この数字は参加者数ではなく、回答数であることに注意) [図-7]

(ブルーの数字が子どもの回答数)

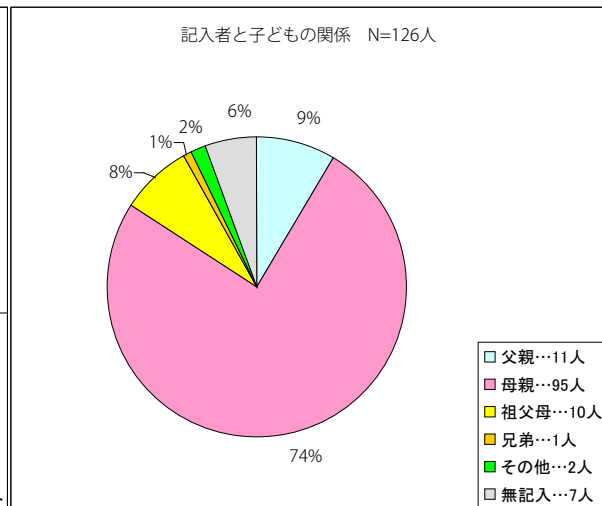
「マジック」	4st.	…	29%	(40人・47人)
「クラウン A」	2st.	…	17%	(23人・30人)
「クラウン B」	5st.	…	15%	(21人・39人)
「落語」	3st.	…	7%	(10人・40人)
「クラウン C」	1st.	…	11%	(15人・12人)
「人形劇 A」	4st.	…	16%	(22人・14人)
「人形劇 B」	1st.	…	5%	(7人・8人)



[図-7]



[図-8]



[図-9]

保護者回答の世代は30代が46% (59人) で最も多く、次いで多い順に40代28% (28人)、20代13% (16人)、1割未満が50代6% (7人)、60代5% (6人)、10代1% (1人) であった。[図-8]

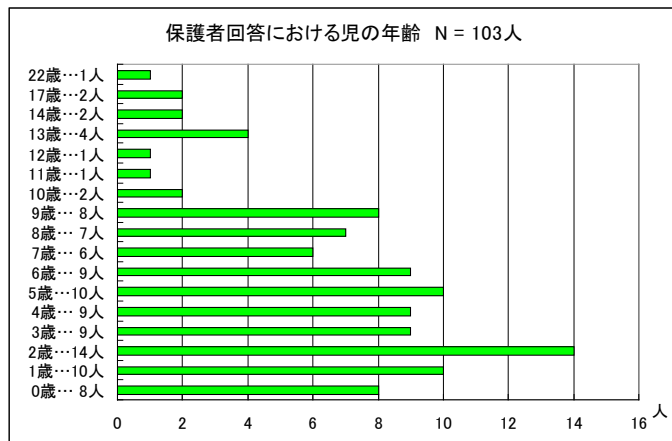
回答者と入院病児との関係では、母親が約7割を占め、次いで父親と祖父母が共に1割弱であった。[図-9]

両項目をクロスしてみたところ、10代の回答者1人は兄弟であった。感染症に注意が必要な病棟では兄弟も見舞いに入れない場合が多いが、慢性期、長期療養の病棟では親子兄弟が肩を寄せて、楽しい時間を過ごす姿が幾組も観察された。また、長期入院の児の付き添いには、祖父母の姿も多く見られた。

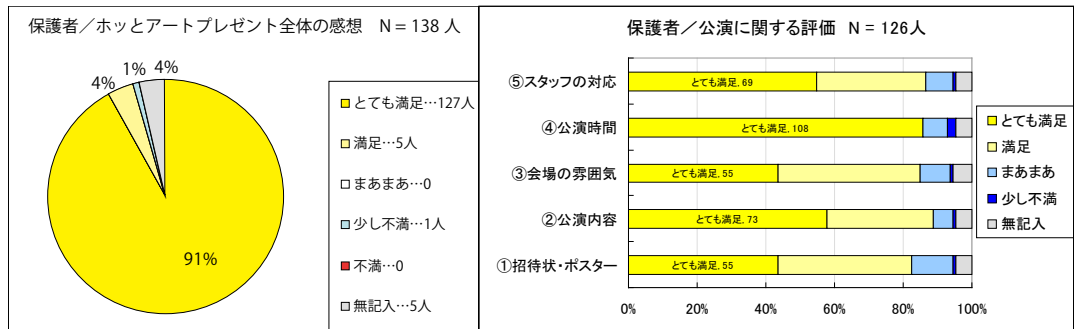
保護者回答の対象となる児の年齢をたずねたところ、10歳～22歳までの合計は10%であり、9割の回答が0歳～9歳に分散していることに留意しておきたい。[図-2]と比較すると概ね逆相となっていることがわかる。[図-10]

保護者回答による児の性別は、男子52人、女子49人であった。

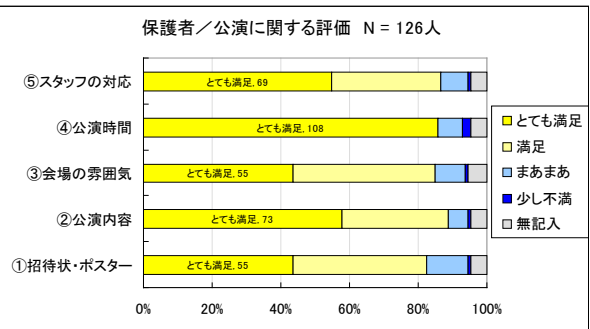
なお、舞台芸術の鑑賞に関しては、一般的社会通念として、0～2歳の子どもの対象とすることは長い間考えられてこなかったようだが、私たちは乳幼児が「親子」で鑑賞する文化芸術体験事業を積み重ねてきており、その有効性も確認している。



[図-10]



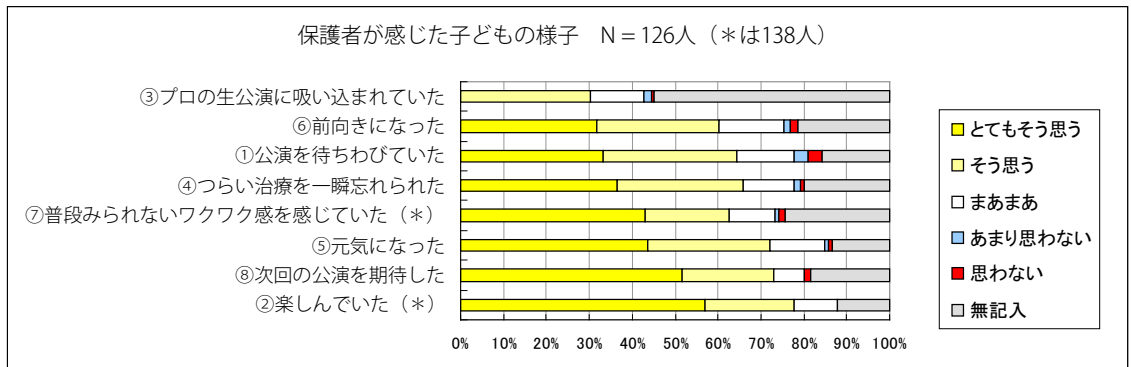
[図-11]



[図-12]

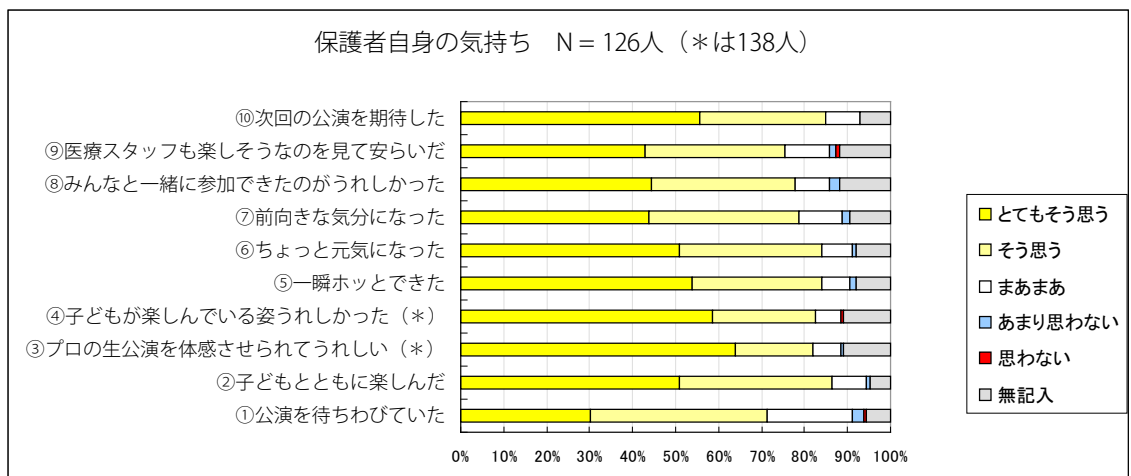
保護者のホッとアートプレゼント全体への評価は、「とても満足」が91%と高い評価であった。[図-11]

公演に関する各項目についての評価は「公演時間」については「とても満足」が86%だが、事前に子どもに配布した「招待状」や院内に掲示した「ポスター」、「会場の雰囲気」は共に「とても満足」が約43%、「満足」を含め8割強で、まだ改善の余地がある。「スタッフの対応」「公演内容」については若干良好である。一方マイナスの評価として3人が「少し不満」にチェックした項目が「公演時間」であった。内1人の方のお子さんは1歳児で、6項目全てについて「少し不満」であった。全アンケートを通じ「不満」とした評価はゼロであった。[図-12]



[図-13]

保護者に子どもの様子をたずねた7項目は、答えにくい方もいたようだが、一方で「元気になった」「普段見られないワクワク感を感じていた」に「とてもそう思う」と感じた保護者は4割、「次回の公演を期待した」「楽しんでた」について「とてもそう思う」保護者は5割を超えていた。「プロの生公演に吸い込まれていた」以外の項目について、肯定的な感じを抱いた保護者は6割～8割程度で、病児に付き添う保護者の切実な願いが叶えられた方も多かったとみられる。[図-13]



[図-14]

公演を「とても」「待ちわびていた」保護者は3割だが、体験により「とても」「次回の公演を期待した」のは5割を超えている。強弱はあっても「子どもとともに公演を楽しんだ」8割の保護者は、子どもの姿に喜びを感じ、重い心を一瞬でも解放し、少し元気になった自分を感じ、共に病と闘う仲間を感じ、前向きになった自分の気持ちを自覚していると思われる。[図-14]